

第2回伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会 会議録

開催日	平成28年5月30日(月)			
開催時間	開 会	午後1時30分	閉 会	午後2時30分
開催場所	市役所 多目的ホール			
委員出席者	伊那市区長会 箕輪町区長会 南箕輪村 伊那中央行政組合 伊那市社会福祉協議会 伊那商工会議所 箕輪町商工会 南箕輪村商工会 上伊那農業協同組合 上伊那森林組合 伊那バス株式会社 ジェイアールバス関東株式会社 中央道支店 有限会社 白川タクシー 長野県宅地建物取引業協会 南信支部 伊那市観光協会 伊那市ふるさとメッセンジャー 伊那市保育園保護者会 上伊那PTA 連合会 公募	山岸 康弘 馬場 恭平 小森 博人 伊藤 徹(代理出席 重盛 巧) 矢澤 秀樹 矢野 昌史 小河 節郎 中川 博夫 伊藤 政志 伊藤 清 福澤 信義 名和 進 白川 光朗 北原 由基雄 宮澤 正巳 高沖 清乃 尾崎 航也 漆戸 正彦 杉山 祐樹		
欠席者	信州大学	鈴木 純		
委員以外の出席者	上伊那地方事務所地域政策課長	池内 武久		
出席した事務局職員	伊那市総務部長 伊那市総務部地域創造課長 箕輪町企画振興課政策調整担当課長 南箕輪村地域づくり推進課長 南箕輪村子育て支援課長 伊那市総務部企画課企画政策係 伊那市総務部総務課長 伊那市総務部地域創造課人口増推進係長 伊那市総務部地域創造課人口増推進係 箕輪町企画振興課まちづくり政策係長	原 武志 宮原 貴敏 今井 政文 田中 俊彦 有賀 由起子 竹松 圭 馬場 文教 伊藤 透 伊藤 貴 鈴木 清次		

議 事	(1) 伊那地域定住自立圏共生ビジョン素案について (2) その他
配布資料	資料1 伊那地域定住自立圏共生ビジョン (素々案) 資料2 伊那地域定住自立圏構想に係る事務手続き等の日程

## 1 開会

副会長より開会が宣言される。

(事務局) 本日の協議会からジェイアールバス関東株式会社 中央道支店の小松聡委員から名和進委員へ変更となっております。

(名和委員あいさつ)

## 2 あいさつ

(会長) 前回の協議会では、定住自立圏構想及び伊那地域定住自立圏共生ビジョンにつきまして、事務局から説明がありました。

本日の協議会では共生ビジョンに基づき実施を計画しているそれぞれの事業について事務局より提案があります。共生ビジョンに載せる内容となりますので、委員各位の活発な議論とご協力をお願いします。

## 3 協議事項 (進行 山岸会長)

(会長) 協議事項 (1) 伊那地域定住自立圏共生ビジョン素案について議題とします。

(事務局) (共生ビジョン素案について資料1の6ページまで説明)

(会長) 内容についてご意見、ご質問がありましたらお出しください。

(質問なし)

7ページ以降について事務局から説明をお願いします。

(事務局) (共生ビジョン素案について資料1の9ページまで説明)

(会長) 生活機能の強化に係る政策分野の説明がありました。ご意見、ご質問がございましたか。

(委員) 空き家バンクの件ですが、このことについては各市町村が空き家対策地域連絡協議会をすでに作って活動しているが、そちらとの関係はどうなるのか。また、市内、町内に不動産業者があるが、そういう方の営業に影響がないのか。

(事務局) それぞれの市町村で具体的な取り組みがされていることについては、それぞれ推進をしていただければと考える。移住希望者で空き家を探している皆さんは、特定の市町村よりも比較的広範囲の中で物件情報を検索する。圏域での共通したサイトを構築する中で利用者の皆様に利便性の高いものを提供していきたい。すでに開設しているようなホームページにもできればリンクをさせていただくような形の中で連携をとっていきたい。

それぞれの不動産事業者がお持ちの情報も行政という立場の中で発信をすることで、民間の事業者とも行政も連携しながら物件の情報を発信すれば、民間さんがお持ちの物件の成約にはつながっていく。民間を圧迫するというにはならない。

(委員) 県が主体となりまして、各市町村でこの組織を作りまして、6月1日にはこの上

伊那は県が主体となりまして、団体は建築士会、建築士事務所協会、解体工業会、長野県司法書士会その他、広域的にこの事業をやっている。これとの関係はどうなるか。

(事務局) 長野県に対する移住希望は全国の中ではトップという状況。今回我々が共生ビジョンの中においては、特に3市町村圏域へ誘導したいという政策。したがってあらゆる手段を使って、移住希望者へは情報を提供していく。県のネットワークを使いながら、3市町村圏域について3市町村に限定した物件について情報を発信していく。移住を希望される皆さんは、ネットを使っていろんな情報を仕入れるので、できるだけあらゆる手段を使って情報発信していきたいという考えである。

(委員) 伊那市はこの空き家バンクについては、伊那不動産組合と伊那市とタイアップしまして3年ほど前から活動をしている。今までの成約件数が40数件。伊那市には54社不動産事業者があるが、空き家バンクの提携に協力していただける業者は、54社中11社になった。今までは高遠町、長谷村に特化していたが、4月からもう少し広域に範囲を広げて活動をしてきている。長野県に対しても、アンテナショップに視察に行き、どんなお客さんの希望があるのか吸い上げているが、活動してみると簡単に田舎暮らし、空き家バンクというといろいろな障害があり、思うようには進まない。目標にして進めていくこと自体は良いことだと思うので一生懸命協力したいが、問題点も多いかと思う。

(会長) 続きまして子育てにつきまして、ご意見をいただきたい。

(委員) 2点事業に入れていただいた。実施していただけると大変ありがたい。

(委員) 子育て関連事業間の協力体制で期待される効果の中で、圏域の住民の皆さんが参加をするというところはとても良い。子育ては親の責任ではなくて、地域の皆さんが子どもを育てるとするのは大事かと思う。研修を協力会員向けとか、職員向けということで、地域のボランティアさんの底辺を広げていくという、一般の人の参加というところまでお考えになっているのか。

(事務局) このテーマを設けた理由ですが、3市町村共に同じような子育て支援機関があり、それぞれの市町村単位で研修等は行っている。お互いに合同でやることによって、課題や解決方法について意見が出てくるものと思われる。当面はお互いの施設、機関にお勤めの職員が基本となると思う。徐々に工夫をして拡大を取り入れていくことが必要で、ボランティアの方たちも含めた研修も可能。

(会長) 結びつきネットワークの強化に係わる政策分野について事務局から説明をお願いします。

(事務局) (共生ビジョン素案について資料1の10ページまで説明)

(会長) 生活機能の強化に係る政策分野の説明がありました。ご意見、ご質問がございませうか。

(委員) 交通ネットワークに関しては、お金のかけ方がちょっと違うのではないかと。定住促進という外から住む方を呼ぶにあたって生活できるような環境を整えるということが必要になる。まず住むところであるし、子育てが当然必要になるし、買い物も必要だし、医療も必要だし、交通の便も必要になる。お金のかけ方として問題になってくるのは伊那から箕輪にかけてつなぐというのは問題ないと思うが、伊那市の

循環バスについてはそれなりの実績があるが、ここにかかる予算があるのであれば、長谷や高遠、箕輪町、南箕輪村でも足りてないところへ補助すべきではないか。デマンドタクシーは月水金や火木土しか動いていない。医者に通おうと思うお年寄りが昼間タクシーを使うが、月水金、火木土では足りないという人が圧倒的に多い。デマンドタクシーも最近お年寄りだけではなくて、子育てされている方も登録されていますし、そういうところにお金を使うべきではないか。

(委員) 通学、通院の足を一番のメインと考えのようで、昼間の便は少なくして、朝晩を濃くするという輸送を考えているようである。具体的には詰めるところもあると思うが、一度は廃止されている路線ですので、非常にそこの住人の方が高齢者になっている。免許証の返納者もいるでしょうし、新規に学校に通う方もいるでしょう。バス停の位置ですとかを見直して、一人でも多く利用者を増やしていく、というのが良いのではないか。利用者の足を一人でも多く確保していくという、その目的に十分詰めていかなければいけない。

(委員) 伊那箕輪間のバスにつきましては、この圏域の住民の皆様の移動のニーズがどこにあるのかというところで、まとめられてこういった計画になっていると思われる。今まで市町村ごとでの取り組みとしてはなかなか難しかったことが、3市町村間が連携することによって圏域の皆様の利便性が向上すればよいと思う。試験運行をするというからにはしっかりと詰めてやっていただければいいと思う。

(委員) 伊那中央病院には、伊那市関係の路線ですと、西循環線、西箕輪線等が乗り入れており、JRバスさんの関係では高遠線、南箕輪村さんのまっくんバス、これらのバスが中央病院に乗り入れている。日々大体800人くらいの外来の患者の皆さんがおいでになる中で、当然、高齢者が多いという状況。市民の皆さん、町民の皆さん、村民の皆さんの要望を整理して路線等をお決めいただければ有益になるのかなと思う。

(会長) 圏域のマネジメント強化に係わる政策分野について事務局から説明をお願いします。

(事務局) (共生ビジョン素案について資料1の12ページの説明)

(会長) 圏域のマネジメント強化に係わる政策分野の説明がありました。ご意見、ご質問がございませうか。

(委員) 対象は職員の方だけか。必要に応じて外部から呼ぶということか。

(事務局) 現状では職員研修。先ほどの子育ての関係の研修というのも住民への広がりというのも想定する中で、順次、必要に応じて拡大ができれば良いと思う。

(委員) 必要に応じて一般の市民の方も関わることもあるのか。目的は職員の資質向上のですが、そこに外部の講師を呼ぶとかではなくて、一般市民の専門分野の方も呼ぶのか。

(事務局) 圏域での共通した課題や魅力を職員の中で共有をさせていただきたい。専門性の高い分野におきまして共通に認識ということで住民の皆さんも併せてということも今後、順次拡大ができればと思う。

(委員) 必要に応じて協力を求めることがあるということによろしいか。

(事務局) 工夫していきたい。

- (2) その他  
(事務局) なし

- 4 その他  
(事務局) 資料2に基づき説明

本日のご意見を踏まえて、それぞれの市町村の議会にも報告をし、パブリックコメントを通じまして広く住民の皆様からご意見をいただく中で、7月中旬に予定しております第3回目の協議会でビジョンをお諮り、最終的に協議会から伊那市長への共生ビジョンの答申をお願いする。その答申に基づきまして3市町村長からなる連絡協議会でビジョンを最終的に協議し、8月中にはビジョンを策定したいので、委員のみなさまにご協力いただきたい。

8月末を目途にビジョンを策定していくため、3分野の6事業の事業で当面進めてよろしいか。個々の事業の具体的な内容、仕組み作りは委員の皆さん、関係職員、地域住民からの意見を聞きながら、最大かつ有効な方法を研究していく。国の交付金事業になるので、来年度予算に反映できるよう8月末を目途に申請し、それに基づいて予算編成と進めていく。今日決めていただいたことが結論ではなく、今後具体的な方法について皆さんから意見をいただくようになるのでよろしくをお願いします。

- 5 閉会  
副会長より、閉会が宣言される。